



イマジン
ロータリー

2022～2023年度

滝川ロータリークラブ

会長 藤井 謙和

- 例会日：毎週木曜 PM12:30より
- 例会場：ホテル三浦華園
- 住 所：滝川市花月町1-2-26
- 電 話：(0125)-22-3344
- F A X：(0125)-24-2755
- メール：takikawarc@gmail.com
- WebSite：www.rotary.jp

第3338回 例会報告 令和5年4月1日（木）

主催者挨拶

第2グループガバナー補佐 高山 訓正



2018年9月15日に開催された都市連合会を最後にCOVID-19の影響により、実に4年のブランクが空いてしまいました。これからCOVID-19は5類に移行となる事が決まり、3密を避けねばならない状況から脱したと判断し開催する運びとなりました。都市連合会はクラブの交流と親睦の場を提供する事を目的とした会であることは承知しておりますが、昨今、専制主義の国が他国へ一方的に侵略し、武力の行使により人権侵害、戦争犯罪が横行している事に憤りを感じております。2022年2月24日よりロシアのウクライナへの侵攻が未だ続いております。そこで、日本人として身につけておかねばならない危機管理能力を高めるために都市連合会のテーマを「危機管理を考える」にさせて頂きました。本日の都市連合会が皆さんにとって有意義な認識となり、会員同志の親睦が更に深まる事を御祈念申し上げます。

歓迎の挨拶

滝川RC 藤井 謙和 会長



本日はお忙しいなか滝川市長前田康吉様、石丸ガバナーを始めとするパストガバナーの皆様そして、第2グループの会員の皆様にこの様に多勢滝川の地へお越し頂き誠にありがとうございます。前回の都市連合会を振り返って見ますと私達の環境は大きく変化しました。新型コロナウイルスの世界的感染により多くの命が失われ、活動が制限され、それに伴う社会経済の混乱により厳しい生活を余儀なくされました。また、追い打ちをかける様にロシアによるウクライナ侵攻は新たな難題を生んでいます。しかしながら、日本全国には7万人を超えるロータリアンがおります。その力を結集し、この難題に立ち向かっていかなければなりません。今日の日がその一助となります事を御祈念申し上げ歓迎の挨拶と致します。

来賓挨拶

滝川市長 前田 康吉 様



本日は多勢の皆様滝川にお越し頂き、市長の立場として歓迎を申し上げる次第でございます。新型コロナウイルスの関係により4年ぶりの開催という事だとお聞きしましたが、漸く社会経済活動が戻ってきた事を実感している所でございます。各ロータリークラブの皆さんのクラブ運営もコロナウイルスの中大変な思い

をされて、活動されて来たのではなかろうかとご推察申し上げるところでございます。行政もこの3年間は本当に色々な困難に立ち向かって参りました。その中におきましても、滝川ロータリークラブのメンバーの皆様は、地域の事を考え職業奉仕を通じて様々な形でまち作りにも貢献頂いております。改めて感謝申し上げます。本日お越しの各ロータリークラブの皆様も、それぞれの地域の為に活躍されてます事に心から敬意を申し上げます。今、国の予算を国会で議論している所でございますけれども、少子化問題、そして防衛問題等様々な問題が山積しております。行政もアフターコロナの新しい時代に新しい発想を持ってまち作りをしていかなければならないと強く思っております。本日も集まりのロータリークラブ会員の皆様におかれましては、それぞれの地域において、新しい時代を作るべくますます活躍して頂きます事、そして奉仕活動が実りある素晴らしいものになります事を御期待申し上げます。今回の都市連合会が大成功に終わります事並びに各ロータリークラブの益々のご発展、会員の皆様のご健勝を心からご祈念申し上げます挨拶と致します。

来賓挨拶(2)

RI 第2510地区 ガバナー 石丸修太郎 様



昨年の夏以降、本日も集まりの四つのクラブに訪問させて頂き、皆様方の温かい気持ちとたくさん頂戴しました事に改めて感謝申し上げます。さて、本日のテーマが「危機管理を考える」ですけれども先般トルコ・シリア大地震の義捐金をお願いをさせて頂き、59クラブより240万円を超える義捐金が集まりました事、この場をお借りしましてご報告致します。また、ロータリー財団へ昨年の2月24日に始まったロシアによるウクライナ侵攻に対する義捐金を頂戴しております事重ねてお礼申し上げます。ウクライナへの侵攻に対して、ロータリー財団は大々的な基金を募って活動致しました。前任の大日向豊吉パストガバナーが2500地区と共同で6月に消防用のレスキュー車を贈らせて頂きました。今でもロータリー財団では支援基金を受け付けておりますが、今年度は地区としてウクライナに対する支援の依頼を致しておりません。何故かと申しますと様々な事情がありますが、一つには北海道にウクライナの方は少なくミャンマーの方は1300人以上おられます。

(右に続く)

来賓挨拶(2)続き

(左の続き) ミャンマーの方々は軍政により帰る事が出来ずにおられるのに援助もしないでウクライナの援助をして良いものなのかと苦慮している所でございます。皆さんに情報提供を出来るまでもう暫くお待ち下さい。私達の周りには色々な意味で手助けが必要な人がたくさんいるというのは間違いのない現状です。それが政変であれ、クーデターであれ、天変地異の天災であれ、助けを必要としている人にどう手を差し伸べられるか。また、逆に私達が支援を受ける立場の時に何をしなければならぬかを国際的な組織の一員として、ロータリアンとして考える事も有意義ではないでしょうか。

前回のプログラム [国際ロータリー第2510地区
第2グループ都市連合会]
- 世界の侵略事件と日本の防衛体制 -
【IM実行委員会担当例会】



滝川駐屯地元司令

北村 昌也 様

昨年、自衛隊の防災部署を退職致しまして北海道防災行政合同会社という会社を設立致しました。そこで、町村の防災訓練のお手伝いをさせて頂いております。これからお話す事は特別防衛機密ではございません。一般に出てくる情報ですが、只日本では報道され

ていないだけで英語で調べればたくさん出てきます。一つご紹介致しますのは、リアルタイムリージョナルゲートウェイ (RTRG) というソフトウェア、システムです。これは、リアルタイムで敵やテロリストを把握する為に国民全員の携帯電話を傍受し、電話番号を解析し通話内容を確認するシステムでイラク戦争の時に使われました。ゲートウェイですので戦闘機や戦闘車両等色々な機器に繋がり、位置を把握し相手を攻撃するので、初めは非常に有効的な攻撃を仕掛けられたのですが相手も異変に気付き、他人の携帯電話を使用する様になったので誤爆が増えアメリカも対策を再考する事になりました。この後の情報については未だ公開されていません。次に、自衛隊の中で情報関係の部署に配属された時の話ですが、約30年前に初めてカウンターパートであるアメリカ国家安全保障局 (NSA) に行きました。NSAはシグント (SIGINT) と呼ばれる電子機器を使った情報収集活動とその分析、集積、報告を担当する所で、当時は殆ど軍人が配属されており、朝8時から夕方5時までの勤務時間でした。それがオバマ大統領時代には全く様相が変わりまして、驚いたのは軍人がいなくなり数学や物理の教授等の学者達が殆どで24時間体制の勤務時間になっておりました。そして、殆どの方がパソコンを前にして難しい解析をしているのをを見た時にこれからの時代には、もう戦車、大砲や小銃等は必要ないのかとも思いました。次に、現在のロシアとウクライナの戦争を「士気」という観点で見るとロシアは難しい戦いをしていると言わざるをえません。何故かと申しますとロシアは開戦後すぐに指揮官である将軍を多数失いました。会社もそうだと思うのですがトップを失うとリーダーシップを取る者がいないので組織に重大な影響が出て来ます。(右に続く)

次年度ガバナー補佐挨拶
赤平RC 宇戸 啓隆 様



次年度2回目のガバナー補佐を務めさせて頂きますので皆様のご協力をお願い致します。さて本日のテーマが「危機管理を考える」という事ですので一つお話させて頂きます。今から60年前、とても流行したウイルス感染症があります。それはポリオです。夕張で発生してから瞬く間に広がり大変なパンデミックを起

しました。当時の日本ではポリオのワクチンは開発されておらず、アメリカ、ソ連、カナダぐらいでしか手に入りませんでした。その為アメリカに援助を求めたのですが、残念ながらアメリカも流行して他国に回す余裕がなくアメリカと反目していたソ連からワクチンの援助を受け、超法規的措置によりすぐに認可がおりました。そのおかげでポリオは終息に至った歴史的事実がございます。危機管理と言う事は政治的な背景を超えて、人道的な立場で援助するという事がいかに大切かという事を思い知る所であります。もう一つ、アメリカからは当時大変貴重な人工呼吸器が贈られ、北海道に5台提供されました。その内の1台が、赤平市立病院に提供されたのでポリオに関して赤平は特別な恩義があり、それ故ポリオの撲滅運動には、本当に力を入れなければならないと強く感じている次第でございます。

今週のプログラム (2)

(左の続き) また、命を懸けて戦争をするので相手より劣る武器で戦いたくはないでしょう。ロシアの戦車が出動してもウクライナの携帯ミサイル等で破壊されてしまう。同様に通信機器やシステムもウクライナの方が勝っていると思います。ロシアはたくさんミサイル攻撃を行っていますが致命的な打撃を与えられないのは目標が解らないのだと思います。先程ロシアが将軍を失った話をしましたが、通常そういう方々は簡単に解る場所には居ないのでウクライナは正確な情報をピンポイントで持っていたのでしょう。これらは、相当な戦意の喪失、士気の低下に繋がったと思います。最後に、士気を高める為にはリーダーではなく、部下の頭脳を使いましょう。自衛隊では重要な会議をする時に課長クラスまでが着座し、班長は後ろに立ち発言する事などあり得ません。しかしながらアメリカは秘書の方々まで同席し意見を述べます。それが良い案なら将軍が採用するのです。階級や身分に囚われず議論を行えるシステムが確率しており、多分日本では真似出来ないと思います。士気を上げる為には部下を知って、活躍できる機会を与える事がとても重要だと今回の戦争を見てつくづく感じる所でございます。

＼(^o^)/ニコニコBOX報告 (敬称略)

石丸修太郎・堀江和美・宇戸啓隆
{岩見沢}江本勝典
{赤平}三上洸二・早坂善幸
{芦別}須藤美紀子・石川洋一・多田康司・照井 学
{砂川}造田孝志・石家裕二・瓜 俊雄・大橋俊彦・北谷好文
佐藤正一郎・沢田広志・高坂 誠・高橋俊美・田中敏文
依谷 薫・千葉 清・銚井直作・松原重俊・水島聖一・山田勝人
{滝川}藤井謙和・高山訓正・宮崎英彰・芦崎利弘・安達晃幸
池田吉隆・上田秀司・太田孝司・神部志乃信・黒元利脇
桜井寿紀・篠島由一・住吉直樹・高橋賢司・竹田行宏
谷口正樹・田中元彦・畠山かおる・前野史賀・水原勝之
山口洋史・山崎 修・山田直登・鷲尾昌法・渡辺浩司
阪井和子・川口裕史<小計229,000円・累計1,688,050円>

出席報告 4月1日

会員数	病欠	免除	出席	欠席	出席率
88名	0名	5名	54名	35名	65%

■ゲスト : 滝川市長 前田康吉 様
滝川駐屯地元司令 北村昌也 様